

授業科目名	医療社会学	単位数	2
担当教員名	細田 満和子	担当形態	単独
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>本科目は、ディプロマポリシー「B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと」を習得することを目的とする。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 社会学や医療社会学の基本的な考え方を理解する。</p> <p>(2) 医療や福祉における諸主体（患者、患者家族、医療・福祉従事者、医療・福祉制度）に対する社会的な見方を理解する。</p> <p>(3) 医療や福祉の諸問題を社会的に捉えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>医療や福祉は、人の生死といった倫理・哲学的な問題、患者／対象者やその家族や医療従事者などの人間関係、病院や各種福祉施設、健康保険や介護保険といった具体的な組織やシステムに関する問題、財源や支出にまつわる経済的問題、政策や患者運動といった政治的問題、医療法や家族法や刑法や民法などの法律問題など、さまざまな要素から成り立っていることを概説する。社会学の見方を利用して、多領域にまたがる複眼的な視点から、患者、家族、医療専門職、社会制度について見てゆく力をつける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：病いや障がいを持つということ</p> <p>第2回：病人役割、障がい者役割</p> <p>第3回：自明性の崩壊</p> <p>第4回：生活史の切断と再編</p> <p>第5回：病いと疾患</p> <p>第6回：受動的能動</p> <p>第7回：患者会とアドボカシー</p> <p>第8回：病いや障がいを持つ人と家族</p> <p>第9回：医療と福祉における専門職</p> <p>第10回：「出会い」と「変容」、「障がい受容」の再考</p> <p>第11回：専門職論</p> <p>第12回：多職種連携</p> <p>第13回：当事者参加</p> <p>第14回：生活の質</p> <p>第15回：病いや障がいと生きる意味</p> <p>定期試験</p>			
<p>学修内容</p> <p>レポートテーマ1：「授業計画」の第1回～第6回までの学習内容について、テキストの序章から第Ⅲ章まで自己学修する。</p> <p>レポートテーマ2：「授業計画」の第7回～第15回までの学習内容について、テキストの第Ⅳ章から終章まで自己学修する。</p> <p>科目修得試験：レポートについても添削指導を受け、両方のレポートに合格したうえで科目修</p>			

得試験を受ける。

教科書

細田 満和子 『脳卒中を生きる意味—病いと障害の社会学』青海社 2006年

※在庫僅少のため 2022 年度より電子書籍に移行する予定

参考文献

(1) 細田 満和子 『パブリックヘルス 市民が変える医療社会』明石書店 2012年

(2) 細田 満和子 『チーム医療とは何か 第2版—患者・利用者本位のアプローチに向けて』
日本看護協会出版会 2021年

学生に対する評価

レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。